

タテヤマンが伝える



本間光丘



本間家の「傘鉾」（「亀鉾」）

本間様は江戸中・後期の大地主、豪商でのちの巨大地主本間家の基礎を作った第3代当主なんだ。「本間様には及びもないが、せめてなりたや殿様に。」と詩に読まれるくらいのお金持ちだったんだよ

本間様ってどんな人？
何をした人なの？

山鉾と本間様の関係…。タテヤマンブルーが教えよう！
酒田のまちを活気づけるためには神社仏閣を立派にし、観光につなげることだと光丘は考えていたんだ。当然、山王まつりを盛大にすることによって酒田をにぎやかにしようと考えたに違いない。光丘は京都の祇園祭りを参考に、1762年に京都の職人に創らせて海を渡ってきたものなんだ。その金額は当時207両。今のお金でおよそ1900万円！
それを聞いただけで本間家はどのくらいお金持ちだったかわかるよね！



酒田市本町にある本間家旧本邸。酒田市民ならば一度は足を運んでいただきたい文化財だ。

平成の世に住む諸君！私が**本間光丘**じゃ。地主、お金持ちと言われているワシじゃが、それだけでないぞ！米澤藩の上杉鷹山からの要請も受け、米沢藩の窮乏を救ったのじゃ。江戸時代一の名君といわれる上杉鷹山の藩政改革の成功に導いたのも実はワシじゃ。

1783年、江戸時代最大の天明の大飢饉では、備蓄米として2万4千俵を放出したのじゃ。そのお陰で庄内では一人の餓死者も出さなかったのじゃ。また、小作へは相場の半値の五分の利で貸し、小作から搾り取るようなことは一切しなかった。小作、農民は一度も一揆、騒動を起こさなかったのじゃよ。農民は、取立ての厳しい殿様に年貢を納めるより本間様の小作になった方が良いと言っていたのじゃ。さらにワシは私財を投じて最上川の治水、酒田西浜の防砂林の植樹、酒田港口の灯台の建立などを行ったのじゃよ。

この酒田に住む身分など関係ない全ての人たちが安泰になればいいと考えたうえでこの行動じゃ。

傘鉾（亀鉾）も山王まつりでにぎわいを見せる為に用意したものじゃ。当時、それはそれは立派な山鉾だと賞賛されたものじゃ。まさか2015年の未来にまで大切にされているとはワシも驚きじゃ。本当にありがたいことじゃよ。

諸君、どうかこの大切な文化をなくさずにいておくれ。



この方が本間光丘様ね！



次回は「酒田の山鉾」を教えよう！

光丘が創らせた「傘鉾」（「亀鉾」）初めは大きな傘が全体をおおっていた。何故「亀」にしたのかというと、当時酒田を「亀ヶ崎城下」と言っていたこと、亀は龍宮城のおつかいとしてめでたいことなどが言われている。ともかく「亀」は酒田湊にはもっともふさわしいものといえよう。

